

④ 地域の女性ユニットによる商店街の活性化に向けた取組【商店街振興組合 名よせ通り】

商店街振興組合 名よせ通り（名寄市）	コミュニティスペース「なにいろかふえ」
<p>「商店街振興組合 名よせ通り」はJR名寄駅から名寄市の中心部を国道40号線まで繋がる形で立地し、アーケードやモニュメントが来街者を迎える通りとなっている。会員数は38名、賛助会員は7名で西條百貨店も賛助会員。</p> <p>○ 所在地：名寄市西3条南8丁目1番地3 名よせ通り駐車場管理棟</p> <p>○ TEL：01654-3-7148</p> <p>○ FAX：01654-8-7018</p>	<p>コミュニティスペース「naniroCAFE（なにいろかふえ）」は、名よせ通りの空き店舗を活用し、平成27年に開設。「なにいろかふえ」では、人の「なにかしたい！」を応援。毎月開催するイベント「なにいろ@（あつと）」では、「なにいろ工房」メンバーの企画だけではなく、もともとは参加者だった人の企画も。自分たちがやってみたくらい、誰かや何かを幸せにすることにチャレンジできる土壌づくりをしている。</p> <p>○ 所在地：名寄市西1条南7丁目西1条南7丁目2</p>

地域の女性ユニットの取組のポイント

「名よせ通り商店街」では、女性部「コスモス会」のメンバーが中心となり、活動していますが、平成27年7月、「名寄の街をもっと楽しく！」をコンセプトに、新たな発想とエネルギーを持ったクリエイティブユニット「なにいろ工房」が名よせ通りの空き店舗を活用したコミュニティスペース「なにいろかふえ」を開設しました。

「なにいろかふえ」では、「名寄市立大」の学生や「ママさんコミュニティ」が行うイベントへのスペース貸しや企画の手伝いなど、学生や「ママさんコミュニティ」と連携した、商店街の活性化に向けた様々な交流事業を展開しています。

地域の状況

名寄市の中心市街地は、天塩川とその支流名寄川にはさまれた地帯に、碁盤目状の街路が縦横に広がり形成されています。

古くから交通の要所であるJR名寄駅前に立地する「名よせ通り商店街」では、平成元年と7年にJR路線の廃止が続き、JRの乗降客が大幅に減少したことに加え、名寄市内に大型店が進出したことも重なり、商店街の来街者は減少していききました。

商店街では、アーケードの改修や花苗設置など活気を取り戻す活動を行いましたが、店主の高齢化や人手不足などから、個店の経営は厳しさを増し、商店街活動も次第に低調になってきました。

取組の背景

このような中、「どうすれば商店街が元気になるだろう」と、結成されたのが商店街の女性部「コスモス会」です。

「コスモス会」が最初に手がけた事業は、6～10月の毎週水曜日に商店街の駐車場で、農家を商店街に招いて地元の新鮮な野菜を提供する「野菜タ市」です。

また、同じく6～10月に農業の盛んな名寄地域の野菜を詰め合わせて、道内外に宅配便で提供する「名よせコスモス便」にも取り組みました。

さらに、名寄出身で道外の大学、企業を経てUターンしてきた黒井氏が「まちづくり」に参画。新たな発想やエネルギーを持ち込み、商店街の女性もメンバーに「名寄の街をもっと楽しく！」をコンセプトにしたクリエイティブユニット「なにいろ工房」を結成しました。

黒井氏が加わった女性ユニットは、非常にパワフルに、平成26年9月から、月に1～2回のペースで、「やりたいこと」と「できること」を話し合ってきました。

そして、「なにいろ工房」では、まず「場」づくりに取り組むこととし、「なにがやりたい」のか、「誰に喜んでもらいたい」のか、「なにを楽しみたい」のか、「どんな街に住みたい」のか、を話し合った結果、「名よせ通り」の空き店舗を活用し、コミュニティスペース「なにいろかふえ」を開設しました。

コミュニティスペース「なにいろかふえ」の目的
<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡易な飲食提供（主に飲み物） 来た人がちょこっとお茶をしながら情報交換できる。カフェでもなく、公共のオープンスペースでもなく「友達の家に遊びに来た」雰囲気です。 2. 物販 名寄にはおいしい農産物はもちろん、地域の人ががリネン織などの手仕事をしているが、販売ルー

トや場所は限られ、「知る人ぞ知る」になっていることから、モノのストーリーと一緒に販売して、生産者と生活者をつなげる。

3. イベント・ワークショップ開催

なにいろ工房では、「なにいろ@ (アット)」というワークショップを毎月開催。

4. スペースレンタル

名寄の中には自分のスキルを活かしてイベントをやってみたいという人がたくさんいるが、公共施設では営利の要素が入ると情報が発信しにくいことから、ノウハウがない人たちに向けて、場所も提供していく。

取組の内容

地域の女性によるクリエイティブユニット「なにいろ工房」では、毎年3～4月に、「名寄市立大学」の新入学生たちを歓迎しようと、商店主の似顔絵付き「商店街マップ」を作成し、JR 名寄駅に掲示しています。

また、「市民力向上」「名寄のことをよく知る」「どうやったら名寄市をよくできるか」について話し合いを重ね、「名寄市立大」の学生や「ママさんコミュニティ」が行うイベントへのスペース貸しや企画の手伝いなどを行うなど、学生や「ママさんコミュニティ」と連携して、様々な交流事業を行っています。

コミュニティスペース「なにいろかふえ」で実施するイベントは、市内商店街5店舗から「オリジナルパン」を集めて販売する「ワンデイショップ」や、転勤族を集めて名寄を語り合う「トークセッション」などがあります。

「なにいろかふえ」の取り組みを続けることにより、幅広い人材が集まり、普通の参加者だった人が企画側に回るなど、参加者同士が助け合う関係性も芽生えるようになりました。

今後の「なにいろかふえ」の展開

最近、「なにいろかふえ」がコミュニティの拠点としての機能を持ってきましたが、「なにいろ工房」では、まだまだ「なにいろかふえ」で実現したいことを、今後も街の人と一緒に進めていくこととしています。

「なにいろかふえ」で実現したいこと！

- ・ふらりと立ち寄れば、名寄の人、モノ、コト、情報を交換できる。
- ・何かを始めたい人が情報やスキル、場所を得られる。
- ・転勤族の若いママさんたちの癒しと憩いの場。
- ・名寄のおいしくて新鮮な野菜が買える。生産者と生活者がつながる。
- ・名寄の大学生と市民が交流して、大学生が名寄を好きになる。
- ・手仕事が上手な女性たちが、モノと人とお金をつなげて循環させる。
- ・名寄の活動家やおもしろい人たちが出会って、もっと楽しいこと始まる。
- ・このスペースがある商店街にもっと人が来て、経済が回るお手伝い。
- ・・・・etc.

今後の商店街の展開

これまで商店街では、各店で買物客に抽選でプレゼントを行う「クリスマスフェア」や、来店者への景品贈呈の「新春初売り」など、定例的な事業しか取り組んでいませんでした。

しかし、「なにいろかふえ」が実施している大学やコミュニティと連携したイベントは、頻繁に開催されることにより多くの人が集まることから、商店街の来街者も増え、個店のPRにも繋がっています。

商店街では、今後も「なにいろかふえ」で実施する、大学や「ママさんコミュニティ」の取り組みの他、様々なイベントと連携し、商店街の活性化に繋げていくこととしています。